資料

2019 年度　部局 FD 活動報告

工学域

1.　FD 活動の実施体制、取り組みの概要
・工学域/研究科教育運営委員が主体となり、工学域/研究科全体の FD 活動を実施している。 ・各課程では、さらに、授業アンケート、オフィスアワーの設定・周知、ピア授業参観、実験・講義科目別情報交換、教育会議などを定期的に実施し、学習成果についての自己点検・評価と、教育の質の改善・向上に関する取り組みを実施している。

2.　FD に関する講演会、セミナー、ワークショップの開催状況

開催日	内容（タイトル）	種別	参加者数
9 月 24 日	第 3 回工学全体 FD セミナー「ルーブリック評価入門」	セミナー・ワークショップ	110 名

3.　FD に関する会議、委員会の開催状況

会議・委員会名	内容	回数	委員数
工学域教育運営委員会	工学域全体の FD 活動の企画、実施および情報交換	10 回	20 名
情報工学 FD 会議	教室会議	10 回	19 名
電気電子システム工学課程 FD 会議 課程教育委員会 実験委員会	課程の全教員による教育改革会議（原則、月 1 回開催） 課程の教育全般 学生実験関連	11 回 11 回 2 回	16 名 5 名 11 名
電子物理工学 FD 会議	教室会議：11 回	11 回	29 名
応用化学 FD 会議	講義科目関連会議：18 回 演習科目関連会議：2 回 学生実験科目関連会議：2 回 教育委員会：1 回 研究委員会：3 回 担当者会議：11 回 教室会議：2 回	39 回	30 名
化学工学 FD 会議	教室会議・職員会議：11 回 臨時教室会議：2 回 担当者会議：11 回 カリキュラム委員会：6 回	30 回	15 名
マテリアル工学 FD 会議	担当者会議：3 回 カリキュラム会議：2 回 FD 会議（教室会議）：4 回 実験担当者会議：5 回	14 回	17 名
航空宇宙工学 FD 会議	教室会議：12 回	12 回	12 名
海洋システム工学 FD 会議	FD 会議 11 回 外部評価委員会（メール審議）：1 回	12 回	学内 10 名 学外 12 名
機械工学 FD 会議 教育点検・生活指導委員会 科目間調整 WG： 　機械工学実験担当者会議	 各科目に対する学生の履修状況等について情報交換し、アドバイザーに履修指導等に必要な情報を提供した。 機械工学実験験担当者会議を開催し、学生実験の履修状況、指導方法等につ	 10 回 6 回	 26 名 15 名

教育評価委員会	いて協議した。 大阪市大の教員を外部評価委員に迎え、主に実験・実習の実施状況を説明し、意見聴取した。	3 回	14 名

4. FD 活動への各教員の参加状況

※ 前項のセミナー・委員会等への参加の他、教授会後に実施している勉強会等への出席や、分野内で成績分布について確認・検討する機会を設けている場合なども含みます。

教員数（実数）	149 人 ／ 165 人中

5. ピア授業参観実施状況

期間	公開授業数	参観者数	特記事項
前期	51	40	・年度当初にピア授業参観の実施計画を立て、年度末にその結果を報告している。(電シス) ・新任教員が「航空宇宙工学基礎」を参観した(前期 15 回)。また他分野の教員から参観があった(前期・後期各 15 回)。(航空)
後期	33	21	
年度 合計	84	61	

6. その他取り組みの具体的実施状況

・全課程において、FD に関する学内の講演会などを聴講し、課程内の FD 活動に役立てている。
・電気電子システム工学課程では、課程独自の授業アンケートを行って授業改善に役立てている。各教員のオフィスアワーの周知・共有およびオフィスアワーの来室者数を調査して、学生の指導に役立てている。実験科目担当者について優秀教員の選出および表彰を行っている。
・電子物理工学分野では、工学 FD セミナーおよび電子物理工学 FD 会議の他に、令和元年度　大学電気系教員協議会　総会および大学電気工学教育研究集会（8 月 8 日）に 1 名参加した。
・応用化学課程では、講義科目「応用化学特殊講義Ⅰ・Ⅱ」に関する情報交換を不定期に実施し、教育の質の改善・向上に関する取組みを実施した。また、次年度用の応用化学実験Ⅰ、Ⅱの内容の見直しを実施した。
・化学工学課程では、4 月にカリキュラムオリエンテーションを開き、学生の履修相談等に積極的に助言を与えている。授業の履修や学生生活における相談窓口として、学生アドバイザーに加え、いつでも教員と相談できるコンタクト教員制度を導入し、修学・進路・家庭・課外活動・その他学生生活全般についての相談に応じるとともに、指導または助言を与えている。毎月授業の履修・出席状況を確認し、教室会議終了後の職員会議で報告し、学生アドバイザーやコンタクト教員による対応など、問題解決のための協議をしている。独自のマークシート式の授業アンケート、職員会議、カリキュラム委員会などで挙がった意見や問題を話し合い、教育の質の改善・向上に生かす取組みを続けている。
・マテリアル工学課程では、マテリアル工学実験Ⅰ、Ⅱの実験内容の見直しを実施した。
・航空宇宙工学課程では、編入学試験問題作成委員会を組織し、各年度の試験問題について検討した。
・海洋システム工学課程では、新大学のためのカリキュラム設計のほか、2 年後の JABEE の継続審査に向けて、教育システムの総合的な点検を行い、オリジナルポートフォリオの改良、シラバスにおける学習目標との対応の明確化、関連科目間の連携の強化に取り組んだ。メール上で外部評価委員会を開催し、アンケートによる意見徴収を行い、その対策を検討した。AO 入試に代わる総合型選抜を提案し、具体的な実施方法を検討した。